

令和7年度 子ども・子育て支援事業経営セミナー

はじめの100か月のこどもの育ちを支える
保育環境の充実のために

保育の質を高め、子どもを育む
これからの保育環境のあり方

大豆生田 啓友 (玉川大学)

大豆生田 啓友
（おおまめうだ
ひろとも）
プロフィール

- 玉川大学教育学部・教授
- 青山学院大学大学院文学研究科教育学専攻修了後、青山学院幼稚園教諭等を経て、現職
- 日本保育学会副会長、こども環境学会副会長
- こども家庭庁「こども家庭審議会」委員および「幼児期までのこどもの育ち部会」委員（部会長）、「保育専門委員会」委員（委員長代理）
- 栃木県幼児教育センター顧問、よこはま☆保育・教育宣言運用協議会委員
- NHK・Eテレ「すくすく子育て」出演、テレビ静岡「テレビ寺子屋」出演、等

ここ3年の著書

- 『愛子先生と大豆生田先生の 保育はやっぱりおもしろい!!』 (小学館)
- 『子ども主体の保育をつくる56の言葉』 (学研)
- 『大豆生田啓友対談集 保育から世界が変わる』 (北大路書房)
- 『豊かな直接体験をベースに ICTで広がる保育』 (チャイルド本社)
- 『園のリーダーのためのリスペクト型マネジメント③多機能化と地域共創の園づくり』 (フレーベル館)
- 『保育の「ヘンな文化」そのままでもいいんですか!?!』 (小学館)
- 『SDGs時代の保育実践アイデア帳』 (フレーベル館)
- 『子どもが中心の「共主体」の保育へ』 (小学館)
- 『あそびが学びとなる子ども主体の保育実践 子どもと社会』 (学研)
- 『0～5歳児 子どもの姿からつくる・これからの指導計画』 (チャイルド本社)
- 『保育ドキュメンテーションの作り方』 (西東社)

保育の変化の大きな時代の中で
→課題を希望へと
変えるために

- 「こどもまんなか社会」の時代（はじめの100か月の育ちビジョン）
- 量的拡大（待機児童解消）時代から「保育の質」の時代へ
- 少子化による園児減少の課題
- 保育者不足の課題
- こども誰でも通園制度の時代
- 多機能化（地域とのつながり）が重視
- 保育DXの時代
- 架け橋プログラム時代（0歳から18歳までの教育の連続性）
- 市町村（自治体）の持続可能性と園の役割
- 地域における研修体制（園内研修・公開保育、中堅リーダー活用）
- 養成校への希望者が減少する時代

幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン (はじめの100か月の育ちビジョン) 概要

令和5年12月22日 閣議決定

はじめの100か月の育ちビジョンを策定し全ての人と共有する意義

幼児期までこそ、生涯にわたるウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に
幸せな状態）の向上にとって最重要

✓ 誰一人取り残さないひとしい育ちの保障に向けては課題あり

※児童虐待による死亡事例の約半数が0～2歳/就園していないこどもは、家庭環境により、他のこどもや大人、社会や自然等に触れる機会が左右される

✓ 誕生・就園・就学の前後や、家庭・園・関係機関・地域等の環境間に切れ目が多い

⇒ **社会全体の認識共有×関連施策の強力な推進のための羅針盤が必要**

目的 全てのこどもの誕生前から幼児期までの
「はじめの100か月」から生涯にわたるウェルビーイングの向上

こども基本法の理念にのっとり整理した5つのビジョン

1 こどもの権利と尊厳を守る

⇒ こども基本法にのっとり育ちの質を保障

- ✓ 乳幼児は生まれながらにして権利の主体
- ✓ 生命や生活を保障すること
- ✓ 乳幼児の思いや願いの尊重

2 「安心と挑戦の循環」を通してこどものウェルビーイングを高める

⇒ 乳幼児の育ちには「アタッチメント（愛着）」の形成と豊かな「遊びと体験」が不可欠



「アタッチメント（愛着）」＜安心＞
不安な時などに身近なおとなが寄り添うことや、
安心感をもたらす経験の繰り返しにより、安心の
土台を獲得

豊かな「遊びと体験」＜挑戦＞
多様なこどもやおとな、モノ・自然・絵本・場所など身近
なものとの出会い・関わりにより、興味・関心に合わせた
「遊びと体験」を保障することで、挑戦を応援

3 「こどもの誕生前」から 切れ目なく育ちを支える

⇒ 育ちに必要環境を切れ目なく構築し、
次代を支える循環を創出

- ✓ 誕生の準備期から支える
- ✓ 幼児期と学童期以降の接続
- ✓ 学童期から乳幼児と関わる機会

4 保護者・養育者のウェルビーイング と成長の支援・応援をする

⇒ こどもに最も近い存在をきめ細かに支援

- ✓ 支援・応援を受けることを当たり前
- ✓ 全ての保護者・養育者とつながること
- ✓ 性別にかかわらず保護者・養育者が
共育ち

5 こどもの育ちを支える環境や社会の厚みを増す

⇒ 社会の情勢変化を踏まえ、こどもの
育ちを支える工夫が必要

- ✓ 「こどもまんなかチャート」の視点
(様々な立場の人がこどもの育ちを応援)
- ✓ こどもも含め環境や社会をつくる
- ✓ 地域における専門職連携やコーディネーター
の役割も重要



全てのこどもの生涯にわたる
身体的・精神的・社会的（バイオサイコソーシャル）
な観点での包括的な幸福



⇒ 全ての人のウェルビーイング向上にもつながる

【「はじめの100か月」とは】

本ビジョンを全ての人と共有するためのキーワードとして、母親の
妊娠期から幼保小接続の重要な時期（いわゆる5歳児～小1）まで
がおおむね94～106か月であり、これらの重要な時期に着目

はじめの100か月の育ちビジョンに基づく施策の推進

- ✓ こども大綱の下に策定する「こどもまんなか実行計画」の施策へ反映
- ✓ 全ての人の具体的行動を促進するための取組を含め、こども家庭庁が
司令塔となり、具体策を一体的・総合的に推進

事例1 保育者の見方が変わったら、 子どもが変わった！ →子どもも、保育者もワクワクの保育へ

- ① すぐに手が出てしまうA児（「手が出る」ことの原因は？
→恐竜への興味関心から絵本や壁面を出してみる→安心感を得ることで変化する姿へ）
- ② 部屋から飛び出してしまうB児（その子の発達特性？保護者のかかわりのせい？→どんな時に飛び出してしまうんだろう？→電車への興味関心に寄り添う→保育者も一緒に子どもと環境の再構成→お散歩の活用→集中して遊ぶ姿への変化
- ③ ぐずって登園するC児（玩具を持ってきてもよいのでは？→安心して登園→中堅リーダーの役割）



事例2 はじめてのサークルタイム

— 3歳児クラスでのチャレンジから生まれた保育 —



<チャレンジテーマ> (往還型研修)

サークルタイム

<テーマ設定の理由>

- ・ 個別の配慮が必要な子が多く、クラス全体として落ち着かなさが…
でも、その子たちも含めて
「クラスの友だちのことを知る」
「それぞれの良さを認め合える機会になればたら」
- ・ 年少でしかかもこのクラスで、イメージはつかないが…
…だからこそやってみたい！

～やってみた様子～



サークルタイムから、保育をデザインする 振り返りを次の活動に活かす

お芋掘りの振り返り→初めて年少だけでの公園遠足へ
おすすめの公園紹介

お芋掘りの後、
公園で遊んだのが
楽しかった！

みんなでまた公園に
行きたい！

みんなを外で
お弁当を食べたのが
楽しかった！

遠足にいこうよ！



サークルタイムから、保育をデザインする

お芋掘りの振り返り→初めて年少だけでの公園遠足へ
おすすめの公園紹介・家庭との連携も

ここ行ったことある！

ここがおすすめ！



宇宙への興味

今日、白いお月様が出てたよ！

なんでお昼なのに！？

図鑑で見よう

今日のお月さま
どんな形かな？



ぼくプラネタリウム
行ったんだ！

(プラネタリウムを)
作ってみたい！



リカオンという動物

動物の足跡があった！



なんの動物だろう??

リカオンじゃない？



なにそれ?!



繰り返していくうちに...

- ・丸くなって集まりたがるように。
- ・友だちの発言への反応が増えた。(顔が見えていること)
- ・自然と集まった時の友だち同士の会話が増えた。
- ・友だちの名前を呼ぶことが増えた！
- ・遊びの共有から、友だちの遊びに興味を持つことが増えた。
- ・「みんなに言いたい！」
「みんなに見せたい！」という発信や
“みんなで”という言葉が増えた。



保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会 議論のとりまとめ【概要】

2020（令和2）年6月26日

1. 保育所等における保育の質の基本的な考え方

我が国の保育所保育の特色
(遊びの重視・一人一人に合わせた関わりや配慮・子ども相互の育ち合い等)

保育の現場において求められること
(保育所保育指針の理解と実践、職員間の連携・協働やマネジメント等)

保育の質は、子どもが得られる経験の豊かさと、それを支える保育の実践や人的・物的環境など、多層的で多様な要素により成り立つ。
(保育の質を捉えるに当たり、「子どもにとってどうか」という視点を基本とする・一定の水準で保障すべき質と実践の中で意味や可能性を追求していく質の両面がある・様々な文脈や関係性を考慮することに留意)

2. 保育実践の質の確保・向上に向けた取組のあり方

保育の質の確保・向上に向けた取組が実効性あるものとなるよう、関係者が共通理解を持って主体的・継続的・協同的に改善・充実を図ることが重要。

① 保育所保育指針を共通の基盤とした取組

- 評価・研修等様々な取組を、関係者間で理解を共有し一貫性をもって実施

② 組織及び地域全体での取組

- 保育士一人一人の主体的・継続的な参画と、そのための職場の環境づくり
- 地域において、各現場のリーダー層や職員が互いに学び合う関係の形成

③ 多様な視点を得る「開かれた」取組

- 現場間で保育士等が互いに保育を見合い対話する機会の充実・促進
- 保育に関する様々な立場からの多面的・多角的な検討の実施・普及

④ 地域における支援人材の確保・育成

- 現場を支持的・協同的に支援し、地域的な取組の中核を担う人材の配置

⑤ 地域の取組と全国的な取組の連動

- 現場の保育士等と地域の学識経験者等が協同的に関わる取組の実施
- 各地の事例や意見等を全国的に検討・協議する仕組みの構築

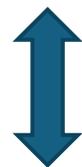
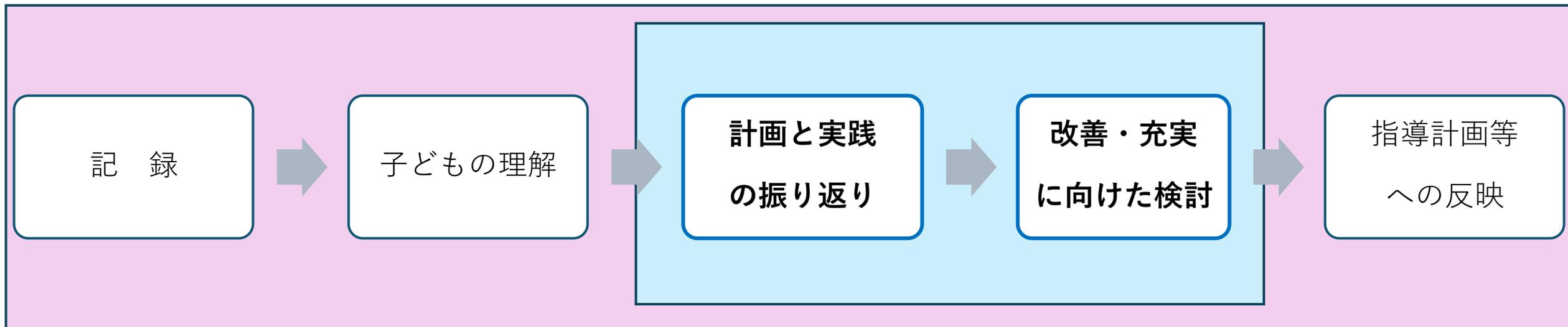
3. 今後の展望

今後、保育の質の確保・向上に向けた一連の取組を進めるに当たっては、国や地方自治体において、以下の施策を行うことが重要。

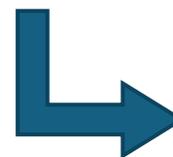
- 保育所保育に関する理解を広く促進するための周知・啓発 ● 「保育所における自己評価ガイドライン（2020年改訂版）」に基づく保育内容等の評価の充実
- 地域におけるネットワークの構築推進 ● キャリアアップ研修等、保育士等の資質・専門性向上の機会の確保・充実 ● 関係者間の情報共有・意見交換の場づくり

※ 今後検討すべき事項として挙げられた「3歳未満児の保育」「移行期の保育と接続」「特別な配慮を必要とする子どもの保育」「保護者に対する子育て支援」に関しては、調査研究と実践を連動させながら継続的に情報共有や理解促進を図る。

保育士等が行う保育内容等の自己評価の流れ



多様な視点からの捉え

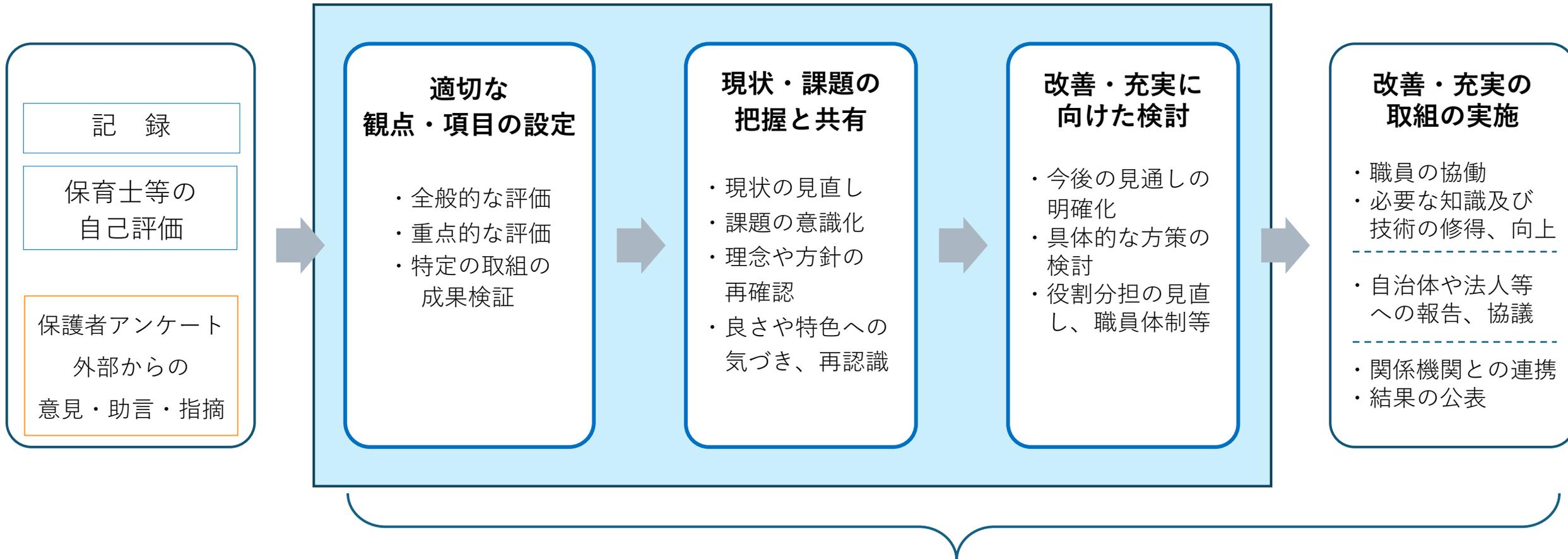


保育士等の
資質・専門性
の向上

保護者との情報共有
(連絡帳・送迎時・面談・保護者会など)

職員間の語り合い・学び合い
(打ち合わせ・職員会議・園内研修など)

保育所が組織として行う保育内容等の自己評価の流れ



全職員による共通理解の下での取組

『保育をもっと楽しく』 保育所における自己評価ガイドラインハンドブックの概要

- **保育所における自己評価ガイドライン（2020年改訂版）**の活用にあたって、各保育所が自己評価の取組を行う際の具体的な留意点や工夫例について、ガイドラインの改訂内容の検討にあたって保育の現場から得られた知見等を踏まえ記載。

1 未来の保育実践 を考えるための「評価」



2 自己評価の実施に当たって 大切にしたいこと

自己評価の基盤となる
「子どもの理解」

日々の保育に手応え
が生まれ、保育がより
楽しくなる評価に



互いに肯定的な理解
と評価ができる
職場の環境づくり

3 取組を進めていく際のポイント

明日の保育に向け
た日常的な記録・
計画の活用



既存の評価項目を
用いる際の
留意点と工夫



会議やミーティン
グの工夫



園長・主任の役
割



保護者や地域
との連携

園内・外部研
修や評価など
の活用



この光っているものは

なんだらう...

201*年10月*日



感触からの
卒直な気づき

科学的な
気づき

わあ!!
おもしろそう!?

3にやっとしてる!?

あいにやみにか
くっついてくる!?

あてにたい!?

きもちいい!?

おっ!!
なんだこれ!?

ゆれてる!?

ぐにやぐにや
してる!?

へんなかんじ!?

ぼくがうつてる!?

だれがいる!?

足をぐと踏んぱて
歩いてほしいから
靴下と履いています。
※ちなみに後ろの子は、靴下の
模様も靴下を履いています。

たおれそう!?
(立っていらねえよ)
たおてきた

歩き始めて間もないので
長い時間立っていらねえよの。

雨上がりのある日、広場（第二園庭）に行きました。水たまりを見つけて、靴下のまま、そっと足を踏み入れた〇くん。その姿を見た△くんが後を追います。水たまりに入ると、子どもたちの手が開きました。足の裏から伝わってきた感覚を全身で感じ、手の指先に力が入ったのかかもしれません。表情も、何かを感じたように変わっていきました。

それぞれの子どもが初めて出会ったものをどう感じ、どう試そうとしているのか。その気持ちと時間を大切にしたい。そのためにも、こんな体験を「存分に」させてあげたいと思っています。

〇歳児クラス
担任：樋口陽子

- 1枚の写真から、子ども
の気持ちや経験を読み
取る研修。
- 「1枚の写真から、こ
んなに子どもの意味が
読み取れるんだ！」
- これは、園内での研修
でも使える！
- これは、保護者への発
信にも使える！

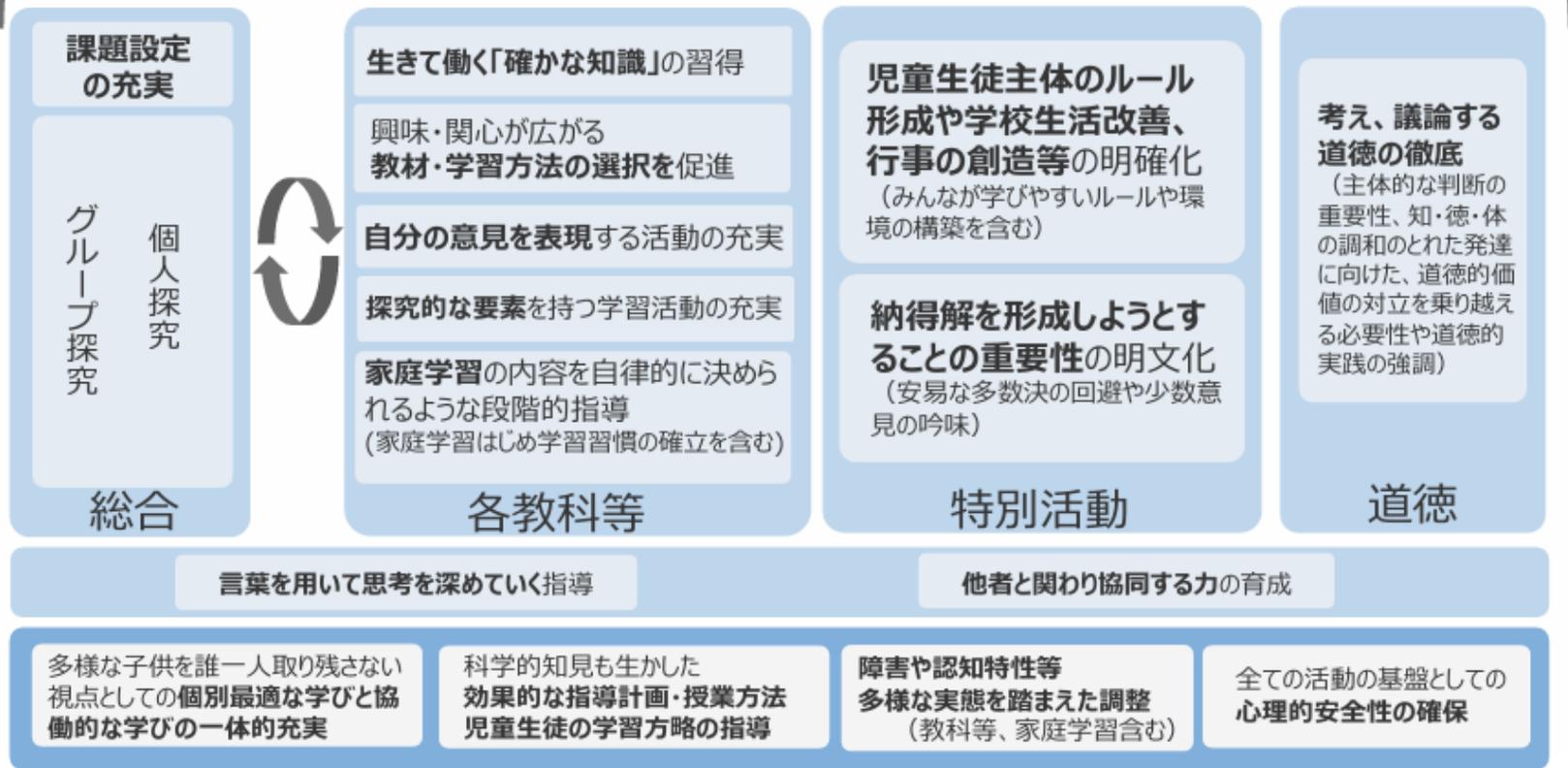
自らの人生を舵取りする力 と 民主的で持続可能な社会の創り手 育成 (今後の検討イメージ)

「好き」を育み、「得意」を伸ばす (興味・関心) × 当事者意識を持って、自分の意見を形成し、対話と合意ができる

【各教科等での検討イメージ】

好き・得意をベースとした
主体的な進路選択の促進

高
中
小
幼



学びをデザインする高度専門職としての教師 「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白
デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備 総合的な勤務環境整備

※本イメージ図は、自らの人生を舵取りする力と民主的で持続可能な社会の創り手育成という今後の検討の一部を資料化したものであり、学習指導要領の改訂に関わる全ての要素を網羅する性質のものではない

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、それぞれ学校教育法、児童福祉法、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律に基づく告示として定められている。

平成29年3月の告示改正以降、社会状況の変化に応じ、教育基本法に基づく第4期教育振興基本計画の策定、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の改正、こども基本法の制定とそれに基づくこども大綱の策定、幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョンの策定、スポーツ基本法の改正、文化芸術基本法の改正など、様々な政策が進められてきた。

こうした社会状況の下、これまでの実践の成果と課題を踏まえ、本WG・委員会においては、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の一層の整合性及び小学校学習指導要領等との連続性を図るため、以下の事項を共通事項として検討する。

1. 遊びの中での直接的・具体的な体験の一層の充実に向けた、指導と評価の改善・充実の在り方

- 0歳から18歳の発達や学びの連続性を踏まえた、内容の改善・充実について
- 幼児教育と小学校教育との円滑な接続について
- 「環境を通して行う教育」と小学校以降の授業改善の方向性の趣旨の一貫性について
- 直接的・具体的な体験の充実を図る道具としてのICTの活用について
- 特別な配慮を必要とする乳幼児への指導について
- 乳幼児理解に基づく評価の改善について

2. 育みたい資質・能力の在り方・示し方

- 小学校以降の内容の一層の構造化、「学びに向かう力・人間性等」の再整理等に関する議論を踏まえた、資質・能力の在り方について
- 表形式を活用したねらい及び内容の分かりやすい示し方について

3. 子育て支援の充実、地域の体制づくりの推進

- 家庭や地域との連携、子育て支援の充実について
- 各地域の体制づくりの推進について

戸外の光や風と共に、 葉の感触や音を身体感覚を通して学ぶ

8か月

- ・パリパリと鳴る音に反応し、保育士の手をじっと見る。



葉っぱがいっぱい
あるよ！

(葉っぱを揉んで見せながら)
パリパリ鳴ってるね！

- ・落ち葉をいくつかパラパラ～と目の前に落として見せると、すぐに反応して手を伸ばし、葉っぱをぎゅっと握る。

あーあー



うーうー

- ・握った手を上下に振りながら「あーあー」「うーうー」と声も出し、“見て見て”とでも言わんばかりに保育士に笑顔でアピール。



- ・風が吹いて、ふと見上げて何かをじっと見ている。
- ・視線の先を追ってみると、近くの葉が風で揺れているのに気付いた様子。

はいはいによって広がる世界



11か月

- ▶ スポンジ製の大型積み木。伝い歩きをする様子に合わせて、並べ直す。

11か月



2歳8か月

11か月

- ▶ 座ると自分だけの落ち着いた空間が確保され、つかまり立ちすると、他児の姿が見える高さの仕切り。

- ▶ 運動機能の発達により、行動範囲が広がるとともに、視界が変化する。
- ▶ 互いの視線が合うなど、他児との出会いや交流の楽しさを味わう。
- ▶ お座り、はいはい、つかまり立ち、伝い歩きなどの動きに合わせた環境の構成・再構成。

絵本を介した保育士や他児とのやりとり



A児

1歳2か月

バナナ、食べる？

・保育士が他児と絵本を読んでいたところに、A児がやってくる。A児に絵本の中のバナナを見せながら、保育士が「バナナ、食べる？」と声をかけると、自分から絵本のバナナに手を伸ばして、食べる真似をする。



ぱく

美味しい？



B児

1歳6か月

・今度は、B児がやってきて、読み聞かせに加わる。
・B児が、絵本のページの果物をつまんで、保育士の口元に運ぶ。「はい、どうぞ」「美味しい！」
・B児は、A児の口元にも運び、A児は自然に“あーん”と口を開け、食べる真似をする。
・しばらく、2人は、言葉はなくても、イメージを共有しながらのやりとりを続けた。



ぱく

じっくり水と向き合い、 試行錯誤を楽しむ



わ～
冷た～い

2歳6か月

- ▶ 水面が波打つ様子を観察する。
- ▶ 指で混ぜて濁る様子などをじっくり見る。



- ▶ 石を落とす高さを変えて、舞い上がる水しぶきと音の違いを楽しむ。





あびらの教育と暮らし、まるわかり。



自分に期待
するチカラを
ぐんぐんと。

北海道安平町は、教育の町

> お知らせ NEWS

地域おこし協力隊員を募集しています(コミュニティ協... (2025年01月27日
現在)

詳細はこちら
ら



「子ども」と
子どもに
かかわる
すべての
「大人」の
幸せを願って

